

愛知学泉短期大学 令和7年度(2025年度)入試 出題意図

国語（一般入学試験）

国語の試験は、高校の科目「現代の国語」「論理国語」の範囲で、基本的な学力が身についているかを測ります。

- **大学が求める水準の達成度**：愛知学泉短期大学のアドミッションポリシーに沿って、同学が求める学力水準に達しているかを確認します。特に、学園全体で推進している**「リーディングスキル向上」**に関連する出題を増やしています。
- **学力の三要素のバランス良い測定**：新しい学習指導要領で重視される「①知識・技能」「②思考力・判断力・表現力」「③学びに向かう力、人間性」をバランスよく評価することを目指しています。
- **思考力や判断力、表現力**：従来の一問一答式の問題を減らし、「クリティカルリーディング」や「非テキストの読解」といった新傾向の問題を導入しています。
- **入学後の成長の可能性**：主体的に考える姿勢や粘り強く取り組む力を評価します。

コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ（一般選抜入試）

英語の試験は、高等学校卒業レベルの基礎的・基本的な知識や技能が身についているかを筆記問題で試すことがねらいです。具体的には、2024年度入試の「傾向と対策」を参考に、以下の能力を幅広く測定することを目指しています。

- **多様な英語技能の測定**：「会話文」「実用文（Eメールや旅行広告など）」「文法問題」「語順整序」といった様々な形式の問題を配置し、総合的な英語力を評価します。
- **基礎的な文法力と語彙力の確認**：文法問題や語順整序問題は、基礎的な文法力の定着度を測る上で有効であると考えられています。また、長文読解や会話文中の単語選択問題を通じて、文脈理解力だけでなく、細かな語彙の使い分け能力も見ています。

歴史総合・日本史探究（一般選抜入試）

歴史総合・日本史探究の試験は、高等学校の学習指導要領を反映した基本的な問題を中心に出题。

- **基礎的な知識の理解度**：教科書の本文、写真、図、史料などを活用し、古代から近現代まで幅広く出題されます。これにより、高校での普段の学習を大切に、基本的な事項を理解しているかを確認します。
- **読解力と応用力**：問題文の中に解答の手がかりが含まれており、問題文をよく読むことで解答できるように作られています。これは、単なる暗記だけでなく、与えられた情報から答えを導き出す力を試す意図があります。
- 学習指導要領の改訂に伴う新科目（歴史総合）についても、基礎的な理解ができていれば対応可能な問題となっています。

生物基礎（一般選抜入試）

生物基礎の試験は、短期大学のアドミッションポリシーに基づき、基本的な知識・技能と思考力を測ることを目的としています。

- **生物学の基礎知識と論理的思考力の測定：**生物基礎の主要 3 分野（「生物と遺伝子」「生物の体内の環境の維持」「生物の多様性と生態系」）から偏りなく出題されます。単に用語を暗記しているかだけでなく、生物現象を体系立てて理解し、論理的に説明できるかを問います。
- **多様な形式での表現力：**出題形式は、語句の穴埋め、図や表を用いた問題、計算問題、簡単な文章で内容を説明する問題など多岐にわたります。これにより、多様な角度から読解力や表現力を測ります。
- **入学後の学修への接続：**食物栄養学科で必要となる「生物」や「化学」などの基礎的な学力、特に計算力も問う問題が含まれており、高校での学びが大学での専門的な学習に繋がることを意識しています。

常識テスト（学校推薦型選抜など）

常識テストは、国語の能力を基盤としつつ、より多角的な能力を測ることを意図しています。

- **高等学校での学習到達度の測定と大学が求める水準の確認：**国語と同様に、高校の「現代の国語」「論理国語」の範囲内で、アドミッションポリシーに沿った学力を測ります。特に、読解力向上プログラム**「RST」の 6 分野 7 項目を意識した問題**が取り入れられています。
- **学力の三要素と主体的な学びの姿勢の評価：**「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」をバランスよく測ります。特に、複数の問題文を読み比べさせたり、160 字の意見文を書かせたりする問題では、主体的に取り組む姿勢、諦めない人間性、表現力を評価します。
- **社会の変化への対応：**大学入学共通テストのように、一問一答式ではなく、問題文が長く、思考力を要する問題形式を採用しています。これは、愛知学泉短期大学が時代の変化に対応しているというメッセージを高校側に発信する意図も含まれています。